

2019年度 第3回キャンパス見学会

令和元年11月9日（土）、第3回キャンパス見学会が開催されました。多くの方々のご参加有難うございました。今回も、前回に引き続き講話の時間を設け、講師をお招きしてお話をいただきました。さらに、ご本人が各科授業見学・体験の間、希望されたご家族の方対象に、当校の就職状況について就職支援アドバイザーよりお話させていただきました。



副校長あいさつ



就職講話

*講話



内村一義氏 北九州マイスター 機械加工分野

内村氏は大手自動車会社の生産現場において機械部品の故障修理を一手に担い、現在は北九州市立大学国際環境工学部加工センターに所属され、後身の指導にあたり、優秀な技術者を育成されています。

今回は、機械加工分野において数々の問題・難問を解決された経験から、「ものづくりの楽しさと大切なこと」というテーマでお話をいただきました。

〈講話の概要〉

1. 今の日本の高度な技術があるのは、産業革命発祥地イギリスなど他の国のおかげであることを忘れてはいけません。
2. ものづくりで大切な基本技能は、技術を学ぶだけではなく、ものづくりの考え方や取り組む姿勢（気持ち）も含まれる。これは非常に重要なもので、何故これをするのかとしっかりと考え、どのような気持ちで取り組むのか明確でなければ良い仕事はできない（基本技能とは、基礎をもとに具体的に物を作るために必要な経験で、さらにその上に応用技能がある）。
3. 応用技能は、目標を持ち、計画的に、そして主体的に仕事をするにより身につくもの。時としてそれは、厳しい環境におかれる場合がある。
4. 取り返しのつかない失敗をする場合（状況）は、気が緩み何も考えなくなったとき。
5. 仕事の楽しさは、今までできなかったことができるようになったとき。そして、その喜びを分かち合える人（チーム）がいること。
6. 仕事を続けるために大切なことは、良好な人間関係と職場において必要な存在となること。良好な人間関係を築くためには、職場において誰もできないような優秀な技術などを身に付けることは大切だが、それだけではなく同僚に対しての目配り、気配り、思いやりを持つことによる。職場において必要な存在になるとは、必要なときにこそ確実な結果を残せること。
7. 人づくりは、篤い指導者のもと、計画的になされなければならない。

北九州マイスターとは（北九州市ホームページより）

北九州市は、官営八幡製鉄所の操業開始以来、100年を超える「モノづくり」の実績を重ねて発展してきた都市です。

わが国の産業界をリードしてきた高度な技術と卓越した技能は、さまざまな分野で活躍する熟練技能者たちによって、いまでも脈々と受け継がれています。

北九州市は、「北九州マイスター」制度を創設し、「モノづくり」に関わる高度技能者を「北九州マイスター」として認定し、表彰しています。さらに、これらの貴重な技能を次代に継承し、地域産業の振興に貢献するための活動を支援しています。

校内見学および各科授業見学・体験

* 生産技術科



教員による科の説明



体験：コンピュータで動く工作機械について模擬授業

* 電気エネルギー制御科



教員による科の説明



体験：温度によって動作を変化させるプログラム作成

* 電子情報技術科



学生による科の説明



体験：在校生と保護者との懇談会

* 建築科



学生による科の説明



体験：鉄筋強度試験の模擬授業